（廿五夕刊）
磐城新聞
休刊 第一第三日曜
定價 壹ヶ月五十錢、壹ヶ月（…）郵税十錢
廣告料 二行五十錢 指定廿錢増
發行兼編輯印刷人 逆沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

## 病日閑想□□□

虚翁

◇

［劍帚］の手澤

人間の思想は境遇に依つて變化を生ずるが普通である。有名な厭世哲學者が美人の細君を得た爲めに、その思想が一變し、大の樂天論者になつたと云ふ話もある。况や凡人共に於てをやだ。

◇

境遇の變化には自個の運命の流動もあれば社會の環境、推移もある。その境遇と思想との關係は頗る複雑にして一々説明する譯には行かないが、概して順境の時は樂天主義となり、逆境の時は悲觀主義となるやうだ。尤も逆境に處して却て反撥する者もある。小人窮すれば濫し大人は窮するも失せず抔と云ふ。

◇

世間ではこの思想の變化を非常に難づかしく考へる。哲學者や、宗教家は自家思想、固定が即ち彼等の生命となる。彼等、思想の變化は時として彼等の生命を無價値とする如き場合を生ずる。誠に窮屈千萬なのだ。

◇

嘔吐きを商賣とする政治家ですら、特説を變更する事は容易に許されない。動もすれば彼は變節漢だ二股武士だ、抔と罵られる。過、體裁を繕ふ爲めには或は洋行の狂言までもやつて見ねばならぬ。桐ヶ峠、大將も却々樂ではない。

◇

其處へ行くと我々平凡級の人間は至極呑ん氣である。俗に云ふその日その日の風次第でフラリフラリとやつて行ける。無責任に悪口を叩いても何處から忍び來るでもなし、誠に有難いことだと思つて居る。玆に我々の思想の變化に就て面白い一例がある。

◇

曾て舊友鳥居素川から「醉古堂劍帚」を貰つた。此書は御存じの通りの格言、名句を蒐集したもので、分つて十二卷とし、醒、情、峭、靈、素、景、韻、奇、綺、豪、法、靑となつてゐる。素川は平素非常に之を愛玩して會心の處には朱點を附し既に可なり手澤が着いてゐた。

◇

我輩も亦頗ぶるそれが氣に入り時々出して見ては面白い處へ朱點を附けた。處がその面白いとする箇所が日に依ち境遇の變化に依つて常に移動して來る。順境の時には豪快の句が目に留まり、逆境の時には悟道の如きが氣に入り、終には全卷殆んど眞ッ赤になつて仕舞つた。

◇

惜哉此書大震災の際に紛失したので更に新しく一本を構ふて見たが之に對して最早一向興味が乘らない。夫は何故かと考ふるに劍帚の字句その物の意義よりも幾多の朱點を施した古本の手澤、我等に言ひ知れぬ懷舊の情趣を與へてゐたのである。

### 明日の吉凶

舊暦 十一月十五日　新暦 十二月廿六日

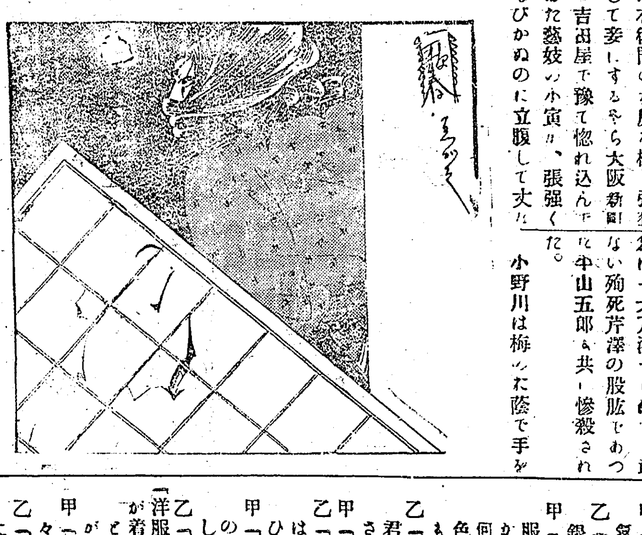
▲一白 自ら守ること堅く又人の意見も尊重すべし▲二黑 人の爲に勞をとれば其の德後日に戻り來る▲三碧 利益のあると見て手を出せば却て失敗勝の日▲四綠 誠意を以てするもそれだけは人に認められぬ日▲五黃 の運は盡して奮闘すれば難も通る日▲六白 元氣沈み自由行動のとれぬ日外事は殊に悪し▲七赤 運氣の開け行く日名弘め開店建造いづれも吉▲八白 自然發展を見るの日何事の急かす除進せよ▲九紫 無理の通らぬ日殊に新しき事に凶多しとす

## 講談 幕末秘話 狂想亂心 (123)

澁澤 默禪作　宮野 叶春畫

彼の凶暴なる振舞は、ひとり小野川事件のみに止まらなかつた。其後四條堀川の呉服商菱屋四郎右衛門の女房に梅、強奪して妾にするやら大阪新町の吉田屋で豫て惚れ込んでゐた藝妓の小寅が、張強くなびかぬのに立腹して丈なす髮を根からふッつりと斬取り、留に這入つた仲居を鐵扇に殺すやら、島原遊廓角屋で行くたびごとの亂暴、床の間に飾つた名器や書畫を亂離骨灰に打壞し七日間の營業停止を申付けるやら、殆んど手の着けやうのない狂態を繰回してゐた。

是を憤慨したのは梅である。小野川事件以來、小面憎くつて堪らぬ矢先にこんな事が度々あるので、勘忍袋の緒が切れた。八の手を籍っす自分だけのきつと制裁を加へやうと決心したが、勇は暫しと止めて機會の來るを待たせた置いた。時は文久三年九月十八日の夜、今宵こそはと手はずを合せて土方歳三と梅とに機密を含めて新選組の大會議を島原の角屋に開いた。



胸に一物ある土方は芹澤を強ひて泥醉させ、その座に呼んだ愛妾のお梅と二階に引けさせてから梅の外に同志の沖田總司を伴つて寢間に踏込み芹澤、しそ床の上へ屏風を押仆して上から芋刺にづぶり／＼と白刃を貫いた。芹澤は醉つてはゐるが流石にぎよう勇の士である。呀と叫びながらはね返して起上り枕頭の刀を抜いて、ひよろつく足を踏しめ、死物狂ひに斬回るところを梅は横合から肩先へズンと血煙の下たどつと斃れた。

此の騷ぎにお梅はびつくりして逃出す背から沖田の爲に一太刀浴せられて、敢ない殉死芹澤の股肱であつた平山五郎も共に慘殺された。

小野川は梅った蔭で手を勞せす復讐が能きた。芹澤鴨が殺されてからは、勇の獨天下、眼の上のタンコブがとれたやうな思がした。從來は勇に反對した芹澤黨も尠からず有つたが肝心の頭領が血祭りにされたので、一人去り二人立退き、新選組には勇の風下に靡かぬ者もなく、聯望隆然一際巾が利いて來た。

それより元治元年の春にかけて天下頗る多事、もし此の時代に新聞といふ通信機關があつたならば少くとも毎日五六回は大々的號外を發行せざるを得なんだあらう。而して新聞記者は必ず護衛兵を連れて探訪に出かけたことであらう。飛行ならば年中取附騷ぎを繰返してゐたかも知れぬ。先づ外交上の葛藤、薩州と英國艦の砲擊、長藩と佛蘭西艦との海戰、幕府と長藩との衝突京都に於ける八月十八日の騷擾、姉小路少將の暗殺やら、七卿落やら、天誅組、但馬銀山の一揆やら眼と眼、齒と齒、劍と劍、火と火、爪と爪、血と血、咬み合ふ響と唸り合ふ叫は晝となく夜となく斷ゆつ聽きつ、日本の南端から京畿にかけて魔界のやうな物凄い殺氣につゝまれた。

廣告

都々逸

「洋服は着よく丈夫で一般むきは品質本位の正札堂」

甲乙二社員が或る會社のテーブルを圍んで
甲「いや君此の頃の不景氣には困つたね……」
乙「ウーン全く困るね、銀行は閉門だし」
甲「一時に君馬鹿に良い洋服をおごつたじやないか、何處で新調したんだね色も素敵だなあ、生地も」
乙「ウーンこれか、それ君も知つてゐる正札堂さ」
甲「あアー停車場通りの」
乙「そーだ兎に角正札堂は平町で一番評判わいひからね……」
甲「全くだよ！……評判のよひ奉驚くね、どうしてだらう」
乙「それは君都々逸にも「洋服は品質本位の正札堂が着よく丈夫で誰も好く」とある様に品が良く價が安いからだよ」
甲「成る程君は素敵な都々逸を知つてゐるね」
乙「マアー洋服は正札堂に限るよ、アハハ、、、」
甲「アハハ、、、、」

正札堂

心配ゴ無用！
ドンチに悪性頑固な慢性淋病も本劑の強烈な殺菌力で尿道の奧深く侵入せる淋菌を見事に滅殺しウミも痛みもケロリと治癒す
今すぐ御服用を……
淋病最新藥
トリックス
一圓・二圓
特約店 平町五丁目角 山野邊藥局

いづみやの
クリスマス大賣出し
お子様方の待ちに待たれた楽しい楽しいクリスマスが參りました
おなじみのいづみやでは坊ちやんや孃ちやんのキット喜びそうなよいオモチヤばかり澤山取揃へて
來ル十二月二十三日ヨリ二十五日マデ三日間
クリスマス祝の景品附大賣出しを致します
クリスマスの贈物はぜひこの賣出中に御用命を御待ち致します
平驛前 いづみや玩具店

食用鳩（カルノー ホワイトキング シルバーキング）
プリユウセキセイ オカメインコ
アカボタンインコ カルカヤインコ
ダルマインコ 小紋鳥
一紅鳥 錦花鳥
白文鳥 白十姉妹
脊ノゴリ 小斑
平町田町本通り
ベニヤ小鳥店

內科 小兒科 皮膚科 花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

スター好 ナフトール 着尺
新柄 モス着尺
新柄 ホグシ銘仙
其の外 色々取揃申候
平 龜田屋
電話五七

學生外套入荷
中學用
二四丈 頭巾付 一一、〇〇
二五丈 同 一一、五〇
二六丈 同 一二、〇〇
二七丈 同 一二、五〇
二八丈 同 一三、〇〇
小學用
一八丈 頭巾付 八、〇〇
二〇丈 同 八、五〇
二二丈 同 九、〇〇
其の他マント、オーバ、トンビ
豊富入荷
あかや洋服店
平 二（電二〇三）

御試食なさいましたか
末廣の鳥料理!!!
忘年會 新年會 大小宴會
相變らず末廣を御利用下さい
割烹 末廣
電話四三

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵 金物問屋 ㊇ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話 九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

# 凍てつく街頭に仕事を求める人々
## 北海道あたりからまで續々と入込む

平町地方の昨今を見ると泣いても叫んでも今年といふ年の總決算するのも數日の後に控ひさらでだに農村極度の窮迫せる慘状を集中して都會の歳末は貧乏神火の車

**横行濶歩**をして居る

そして灰色と陰鬱とにみなぎる暮の商店の店頭には窓飾の交りに外交募集のビラが貼られてあるこうした一寸でも景氣のよさそうな處に外交員たらんと志望するものが可成り多い然しそれは固定給なしで販賣部合による部合制度の採用である使用人の方ではこの金廻りの悪い歳末に、いく分なりとも高品を賣捌詰め金をまとめたいと云ふ、窮した一策であるが、職業紹介所に顔を出してみると土工志願の群がどや／＼と求人カードを見つめて不安の色を漲らしてゐるその中にははる／＼秋田、山形、青森など他縣から流れ込むで來た連中が多くなつた又北海道樺太の雪國から平で正月を迎へ様とて飛込む住宅の地なき若者も多いそうした荒くれ男の中に交はつて冬休期間丈でも勞働し糜費の一部を得様とする氣の毒な人もある女の方では殆ど就職などをする事は出來得ないまでに社會の求人狀況の絕ねて居る有様、殊に最近の面白い現象として炭坑方面のみ景氣のためいまでは

**坑夫相手**に喊高い聲と悪酒の酔でくる夜も／＼唄ひ唄つて人生の歡樂にふけつてゐた酌婦達で今はたかり客もなく一種の悲哀とさびれきつた身と都會に運び生活の一路をさぐつて居ると云ふ巷、暮れは濁流が渦まく様である

# 農閑期を利用して養蓄業を獎勵
## 模範は江名養豚組合
## 大童べの郡農會

石城郡農會では目下農閑期にある各農村に對し副業獎勵を續けてゐるが副業中當地方に最適なものは養鶏養兎等の畜業で今や全郡下に亘つて非常な養蓄熱の普及を見てゐるが右に就き郡農會大宙妓師は「郡下の副業が逐年盛大になつて行く事は喜ばしい、石炭以外の特産品を有せない當地方としては是非此等の養蓄を以つて將來發展したいものである數日前江名町の養豚組合を視察して來たが同組合で現在有する設備をもつてすれば今後本場から血統正しい良種を購入して一層の研究を續けた飼養を爲せば相當な發展を見る事は明らかで

**同組合が**地元から安い鮮魚を求めて飼育出來る事が有力な富展の素となるであらう」云々と語つてゐた

# 研究講座
## 双六の由來に就いて
山田浩吉投

双六は隨分大昔からあるものでおしやか樣のお生れになつた天竺印度の國で考へ出されて支那をへて日本に傳はつて來たもので百人一首の「春過ぎて」歌で名高い持統天皇の御代に一度さし止められたと云ふことがありますからそんな大昔にもう日本へつたはつてゐて大はやりであつたことがわかります。

又、支那の玄宗皇帝といふ王さまが楊貴妃と云ふ美しいきさきとがこの遊びをして 朕が思ふやうな目が出たら、さいころに「五位」の位をやらう」と言はれたと云ふ事もありますから昔は身分のある方や大人などがやつてゐた遊びです。そしてしまひには色々のものをかけて一生懸命になつてやるものですからそのため色々惡いことをするやうになるのでお上が命令で時々さしとめられたのです。

けれど今申上げましたこの昔の双六は今の皆さんが樂しみにやつてゐらつしやる双六とは大分かはつてゐる盤双六と云ふものだつたのです。碁盤のやうな風に縦七八寸横一尺より高さ四五寸位の木の盤でその面に双方十二づゝの目を盛りこれに白黑の色分がしてある十二の駒をならべておいて二個の「采」を竹の筒の中に入れ互に振出して「さい」の目どほりに駒を進ませて早く敵陣の中へ入つた方が勝になる遊びだつたのです丁度今の將棋のやうなものだつたのです。これは明治になつてからすつかりすたれてしまひました。

それから今皆さんがやつてゐらつしやるやうな紙の双六は、盤双六の「さい」を振つて駒を進める方法を應用して考へ出したもので初め「佛法双六」「官位双六」などゝ云ふのが德川時代の初め頃に出來ましたが之らには一つも繪はなかつたのです「淨土双六」と云ふのが次に出來て初めて繪をつけたものです「淨土双六」は振出しが印度の南の方の昔の國の南の浮臺でサイの善し惡しで天道に登つたり地獄におちたりするなか／＼面白いものでした。

それから今から二百五十年ほど前德川の五代將軍時代に「道中双六」といふのが考へ出されましたそれ方も少しかはつてゐて「官位双六」や「淨土双六」は飛々に進むのですが、道中双六は「さい」の目の數にしかつて進むのですそれから今日皆さんがやつてゐるやうに色々のが澤山に出來るやうになつたのですも、[illegible]は季節にかまはないでやつてゐたのですがいつのころからか追羽子や、こかるたのやうにお目出度い新年の遊びになりました。

# 馬車挽き人妻の驅落
## 四人の子を棄て 呆れた淫奔女

石城郡上遠野村深山田幸助妻キセ(四〇)は去る十六日頃荷馬車挽業高木錠太(四〇)と駈落ちをしたので幸助が狼狽して植田署に捜索を願ひ出たキセは年にも似ず斷髪のハイカラ女でしかも四人の子を持ちながら常に近所の者と噂を立てられてゐた淫奔者である

# 知らないうちに飛でもない前科二犯
## 吃驚した丹野利松さん
## 選擧名簿の作成から友人の詐稱と判明

平町役場では九月現在を以て衆議院議員選擧有權者名簿を調製する際平町大工職丹野利松(三八)が大正十二年十二月神戸地方裁判所にて窃盜で徴役一年半に處せられ前科を有しながら申告して來たので同町では本人に其旨を通知し失格者として取扱つた所通知を受けた丹野は懲役を受けた覺わなく全く寢耳に水なので非常に驚き早速役場に出頭申達であると取消し方を陳情したので役場では更に神戸地方裁判所に眞否を照會した所二十三日平町役場宛に秋田縣仙北郡荒川村三九七越前榮助(三六)が前記丹野と懇意であつたのを奇貨とし同人名義を利用して受刑出獄した事實と丹野の前科を取消すやうと回答があつたので役場では二十四日正式に丹野へ右の旨を通知したが平町ではこんな事は役場始まつて以來ない事と驚いてゐた

# 植田署に荷物を呉れ
## ご吐鳴る狂女

植田警察署に去る二十二日晝過ぎ酌婦風の一人の女が來て汽車の小荷物の預かり證を出して荷物を渡してくれと云ふので流石の警官もあきれ返りよく調て見ると發狂者上りのキ印と判つた。この女は相馬郡原町生れ今野キン(假名)と云ふ四十七歳の大うば櫻であるが若い時に藝妓や酌婦として轉々し惡性の梅毒が腦を惡くし遂に精神に異狀を來すに至つたものらしく色情狂で署員を大笑ひさせたが、原町署に照會の結果同日夕家人が出頭しつゝ戻つた

# 讀者欄
## 暮街臍漫談

切端つまつた歳の暮、泣くも笑ふも後七日、どうで暮らさにやならぬ月、歳じたばたしても詮ないこと。すつぱり臍を落ち着けて、どうでね——笑つて過ごすとしようじやねえか。

◇

ところで臍の在所だが、こいつあ一寸眉唾もの、昔々その昔アダムとイヴの兩人は、お臍を持つては居なかつたと、紅毛人の言ひ傳へ。まこと萬能の神とやらが手づから造つた人間だからに臍はいらなかつたわけ。

◇

末世人の吾々は、母のお腹に十ケ月、潛んで居つたばかりに、果實のへたにさも似たる、わたいの知れないお臍といふもの、ちやんとくつけてござらつしやる。

◇

さは言へ、痩我慢ではないけんど、娘十八お臍が無けりや。のつぺりお腹の片輪者。誰もお嫁にもらひ手は、まああるまいといふものさ。

◇

ところでお臍の格構は、出臍、ひつ込み鼻曲りても珍妙な愛嬌者。そのことはまあ解つてゐるが解らぬことがたつた一つ。洋の東西もろもろの。學者賢者が集まつて、研究したが解らない。そいつは臍の位置つてことさ。

◇

開けば大槻老人の「言海」といふ物識り本には「腹の中央窪んだ處」と物識り顔に書いとるさうなが、そんなら誰でも知つて居る。それぞれお腹の面積の、上から下から横からも、何分の一といふ處と相場がきまつて居そうなもんださては學者が騷ぎ立つなんと怪しい臍の位置、しづめ治まる聖代の、昭和の御代にありながら。てな人騷がせな——おへそじやなあ——。

# 自動車が暴れて乘客一名重傷
## 自動車と荷車に追突
## 綴地內の椿事

石城郡湯本町鈴木自動車部第三二七號乘合自動車の運轉手三浦安次郎(二八)が操縦して廿三日午後三時半頃平町に向つて疾走中內郷村字綴地內國道に差掛かつた際前方から疾走中の內郷村字小島佐藤三平所有乘合自動車第六四七號鈴木誠一操縦を追こさんとし同様前方を荷車を引いて通行中の平町字新川町菓子商大沼榮一郎(三七)を踏飛ばし荷車は田甫の中に顛落せしめたので三浦は狼狽し方向をかへようとした際今度は鈴木の自動車の横腹に衝突し同自動車を運轉不能に陷らした乘客たる內郷村字宮磐城炭礦飯場頭關能藏(四七)が腹部に打撲傷を負ふたのを其儘打捨てゝ逃走、平町に至つた處屆け出でに依り平署に引致され嚴重取調を受けて居るが事故の原因は三浦は後から疾走して來た鈴木の爲め追拔かれた爲め全速力を以て追拔かんとした爲めである

# 女子青年團第三方部集會
## 明日平館で

平町外十一ケ村を區域とする石城郡聯合女子青年團第三部集會は明廿六日午前十時より平館にたいて開催す

# 殖えるく平町負債七十萬
## 生れたばかりの赤ん坊でも平均三十圓の借金がある譯
## 一戸當り百八十圓

平町の第三小學校は九萬八千五百圓の町債に依つてよ／＼明春から起工と決定此れが起債認可及借入決定した事は昨報の如くであるが平町には現在四十三萬圓の水道債と七萬四千圓の小學校新築債や未償還四十五萬圓と言ふ膨大な負債を負して居り今回の起債を合すれば五十五萬圓となり更らに議決濟となつてゐる水道の擴張費に繰入れる町債十五萬三千圓を加ふる時は實に七十萬圓の巨額を突破する事となる譯で此の平町債を四千六百の賦課戸數に割當ると一戸當り百八十圓餘更らに二萬六千の町民に割當ると生れたばかりの赤坊から先般の御大典養老杯を頂戴した老人迄まで一人殘らず約三十圓の借金を脊負つて居る勘定なる

# 役場廳舍に湯本町の舊磐炭礦業所跡を正式決定

火災後磐城炭礦の礦業所跡を假に役場事務所として使用しゝあつた石城郡湯本町役場はその後磐炭の本社移轉問題が傳はると同時に本社を同所に設置せしむべく運動劃策中であつたが地方炭界不況その他種々なる事情の爲め湯本町移轉は不可能となつたので今般同所を湯本町役場として正式に一般事務を執ることゝなりさる二十三日吏員一同にて大整理を斷行した

# 歳晩考
## 乙に遊んだむかしの夢
### 車やさん稼業を滾す高木親方

旦那！景氣どころの候ぢやごあせんせ今年はねな、から駄目でがす古い話は知らねいがわつちや始めてかぢ棒握つてから七八年こゝ方こゝ(平驛)で渡世をしてゐるが始めのうちはこの停車場にばかり人力車が百五十臺ほどすらりならんでゐたが一日一臺二兩は取つぱぐりなかつたものだ旦那うその様だが大正七、八年、景氣にや日にだまつて十五、六兩轉がり込むので車夫家業でも一寸たつに遊んだもんです

× ×

ところがどうです、この頃ときちや車は一十二、三臺しかなくて日二兩どころか二十五錢か五十錢、おまんまにならねえ、けふ日車に乗る者はまあ病人、大荷物を持つた人、土地不案内の人でこの內平町に始めて來た人が九分九厘までだからまるで町の案内役の様なものさ

× ×

これも時世時節でしようがねえ汽車ですら自動車がふゑたんで收入が二割減つたてふからわつちらの様な時代遲れの商賣がたまんまになんねねのも仕方ごあせん旦那！だがお上は拔け目がねいネ、わつちらがあまんになんねえからつて人力車稅の免除を願つたところが五兩を半分の二兩二分にしたのは有難てえがこんどは運搬稅三兩とられて差引二分の損と來た、もうこんな商賣は歌の文句ぢやないがさらりとやめて自動車の運轉手か飛行機乘りだ

× ×

赤ヶ井嶽おろしがひう／＼吹く平驛に汽車の着く度に飛だすが一向に客がないので自棄氣味の構內人力車夫達を督勵してゐる世話役の高木親方の本音よつて如件

# 松伐りの注意書配付
石城郡各町村に

新正月がせまつて來てそろ／＼松飾りの季節となつて來たがこれに用ふる松の新芽を剪り取るものが多いので石城郡下各村役場にたいしては今回注意書を各戸に印刷配布した

# 平驛の乘降統計
## 歳末には一萬の増加か

歳末に至つて少しは人の動きが出て來たと見へて平驛における最近二ケ月間の乘降人員を見ると十一月乘車人員總數七萬七千五百四十一人降車人員六萬四千二百九十五人本月は十二月二十一日までの計算に依れば乘車人員四萬七千四十九人降車人員四萬六千五百八十四人で更に本月は殘餘の日數を加算するならば乘降人員において約一萬人近くの增加を見るであらうと

# 平産婆會總會
## 總會期日等附議

平署管內居住の産婆によつて過般創立された平産婆會創立後第一次の總會は二十三日午前十時から平署樓上において開催されたが出席五十名會長應崎千代氏の挨拶について會費(一ケ年三圓)制定、總會期日(毎年一回四月)を協議決定し了つて猪狩署長の訓示あり正午閉會した


磐城病院改稱
市原病院
平町田町(電話一一四番)
內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員が御伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

外科 外科一般 耳鼻科 花柳科
婦人科 婦人科 産科
內科 X光線科
赤心堂病院
平町田町(電四七五)

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器 八〇、〇〇圓
撮影器 六五、〇〇
フヒルム 一本 二、〇〇 二、五〇
生フヒルム 一本 一、〇〇
市內はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタロ－ク進呈
パテーベビー代理店
平町二丁目 西村屋藥舖
電話三番

內臟外科
骨關節外科
整形外科 專門 藤本順
産科
婦人科 院長 木村寅次郎

外科
婦人科
平町新川町 木村醫院
電話一六四番